新学習指導要領に対応した学習評価
（中学校　美術科）

文部科学省
初等中等教育局　視学官　東良　雅人

目次

1.美術科における学習評価の考え方

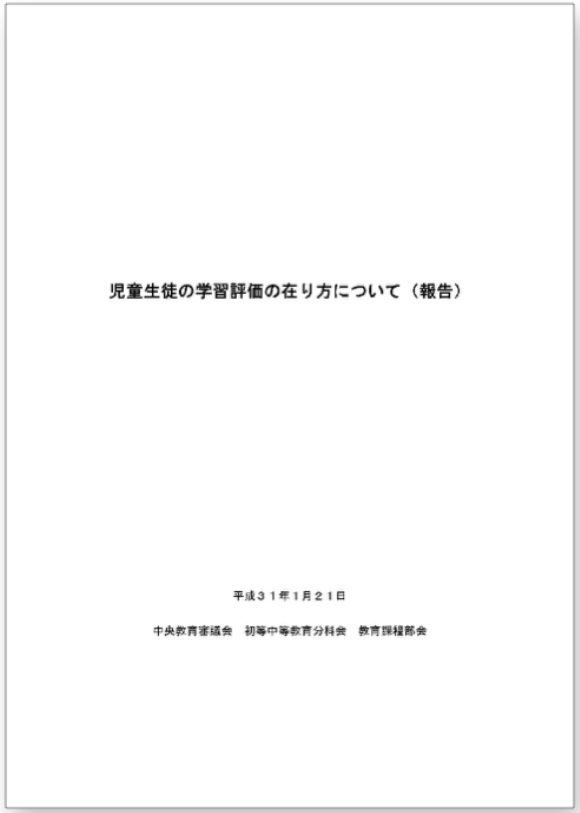
2.美術科における評価規準の作成について

3.指導と評価の一体化を図る学習評価の在り方

4. おわりに

1.美術科における学習評価の考え方

2.


児童生徒の学習評価の在り方について（報告）

平成３１年１月２１日

中央教育審議会　初等中等教育分科会　教育課程部会

児童生徒の学習評価の在り方について（報告）

平成３１年１月２１日

中央教育審議会 初等中等教育分科会

教育課程部会

学習評価の改善の基本的な方向性

① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと

② 教師の指導改善につながるものにしていくこと

③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

中学校美術科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，造形的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに，表現方法を創意工夫し，創造的に表すことができるようにする。

(2) 造形的なよさや美しさ，表現の意図と工夫，美術の働きなどについて考え，主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり，美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(3) 美術の創造活動の喜びを味わい，美術を愛好する心情を育み，感性を豊かにし，心豊かな生活を創造していく態度を養い，豊かな情操を培う。

中学校美術科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，造形的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに表現方法を工夫し，創造的に表すことができるようにする。

「知識及び技能」

(2) 造形的なよさや美しさ，表現の意図と工夫，美術の働きなどについて考え，主題を生み出し豊かに発想や構想を練ったり，美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

「思考力，判断力，表現力等」

(3) 美術の創造活動の喜びを味わい，美術を愛好する心情を育み，感性を豊かにし，心豊かな生活を創造していく態度を養い，豊かな情操を培う。

「学びに向かう力，人間性等」

5.

(1) 生きて働く**知識・技能**の習得

- 造形的な視点に関すること
- 技能に関すること

(2) 未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

- 発想や構想に関すること
- 鑑賞に関すること

(3) 学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向う力・人間性等の涵養

- 創造活動の喜び，美術を愛好する心情，豊かな感性，心豊かな生活を創造する態度，豊かな情操

6.

〔共通事項〕(1)	造形的な視点に関すること
「A表現」(2)	技能に関すること
「A表現」(1)	発想や構想に関すること
「B鑑賞」(1)	鑑賞に関すること
「A表現」，「B鑑賞」及び〔共通事項〕を指導する中で，一体的，総合的に育てていく	創造活動の喜び，美術を愛好する心情，豊かな感性，心豊かな生活を創造する態度，豊かな情操

観点別学習状況の評価の観点の整理

資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて，観点別学習状況の評価の観点については，小・中・高等学校の各教科等を通じて，「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点に整理。

＜平成20年改訂＞

- 関心・意欲・態度
- 思考・判断・表現
- 技能
- 知識・理解

→

＜平成29年改訂＞

- 知識・技能
- 思考・判断・表現
- 主体的に学習に取り組む態度

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校美術）令和２年３月　Ｐ６「図２」を基に作成

8.

〔共通事項〕(1)	造形的な視点に関すること
「A表現」(2)	技能に関すること
「A表現」(1)	発想や構想に関すること
「B鑑賞」(1)	鑑賞に関すること
「A表現」，「B鑑賞」及び〔共通事項〕を指導する中で，一体的，総合的に育てていく	創造活動の喜び，美術を愛好する心情，豊かな感性，心豊かな生活を創造する態度，豊かな情操

8.

〔共通事項〕(1) 知

「A表現」(2) 技

知識・技能

「A表現」(1) 発

「B鑑賞」(1) 鑑

思考・判断・表現

「A表現」，「B鑑賞」及び〔共通事項〕を指導する中で，一体的，総合的に育てていく

主体的に学習に取り組む態度

学習指導要領と評価の観点との関連

領域等	項目と育成する資質・能力との関係	評価の観点
A 表現	(1)発想や構想に関する資質・能力	「思考・判断・表現」
	(2)技能に関する資質・能力	「知識・技能」（技能）
B 鑑賞	(1)鑑賞に関する資質・能力	「思考・判断・表現」
〔共通事項〕	(1)造形的な視点を豊かにするための知識	「知識・技能」（知識）

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校美術）令和２年３月 P52

【中学校学習指導要領 第２章 第６節　美術「第１ 目標」】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，造形的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）	（２）	（３）
対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに，表現方法を創意工夫し，創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ，表現の意図と工夫，美術の働きなどについて考え，主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり，美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	美術の創造活動の喜びを味わい，美術を愛好する心情を育み，感性を豊かにし，心豊かな生活を創造していく態度を養い，豊かな情操を培う。

（中学校学習指導要領 P. 107）

【改善等通知 別紙４　図画工作・美術（１）評価の観点及びその趣旨　＜中学校　美術＞】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・表現方法を創意工夫し，創造的に表している。	造形的なよさや美しさ，表現の意図と工夫，美術の働きなどについて考えるとともに，主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり，美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

（改善等通知　別紙４　P. 16）

評価の観点及びその趣旨

各教科等の学習指導要領の目標の規定を踏まえ，観点別学習状況の評価の対象とするものについて整理したもの

【中学校学習指導要領 第２章 第６節　美術「第２ 各学年の目標及び内容」〔第１学年〕１ 目標】

（１）	（２）	（３）
対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに，意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ，表現の意図と工夫，機能性と美しさとの調和，美術の働きなどについて考え，主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり，美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい，美術を愛好する心情を培い，心豊かな生活を創造していく態度を養う。

（中学校学習指導要領 P. 107）

【改善等通知 別紙４　図画工作・美術（２）学年別の評価の観点の趣旨

＜中学校　美術＞第１学年】

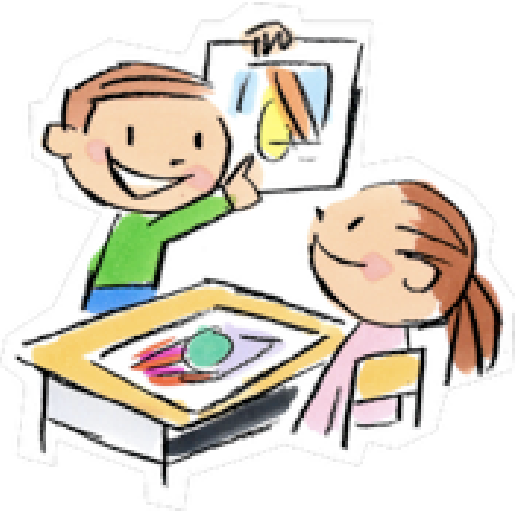
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・意図に応じて表現方法を工夫して表している。	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ，表現の意図と工夫，機能性と美しさとの調和，美術の働きなどについて考えるとともに，主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり，美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

（改善等通知　別紙４　P. 17）

評価の観点の趣旨

各学年（又は分野）の学習指導要領の目標を踏まえ，観点別学習状況の評価の対象とするものについて整理したもの

2.美術科における評価規準の作成について



国立教育政策研究所が作成する資料の概略について

「学習評価の在り方ハンドブック」

学習評価に関する基本的な情報をまとめたもの
教員研修等で活用されることを想定して作成

国立教育政策研究所が作成する資料の概略について

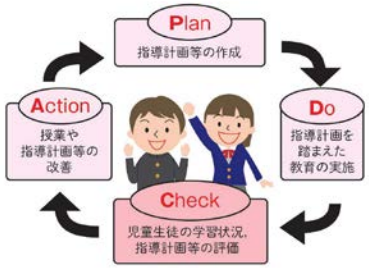
学習評価の基本的な考え方

学習評価は，学校における教育活動に関し，児童生徒の学習状況を評価するものです。「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え，**教師が指導の改善を図る**とともに，**児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする**ために，学習評価の在り方は重要であり，教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められます。

カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価

各学校は，日々の授業の下で児童生徒の学習状況を評価し，その結果を児童生徒の学習や教師による指導の改善や学校全体としての教育課程の改善，校務分掌を含めた組織運営等の改善に生かす中で，学校全体として組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っています。

このように，「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹であり，教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っています。



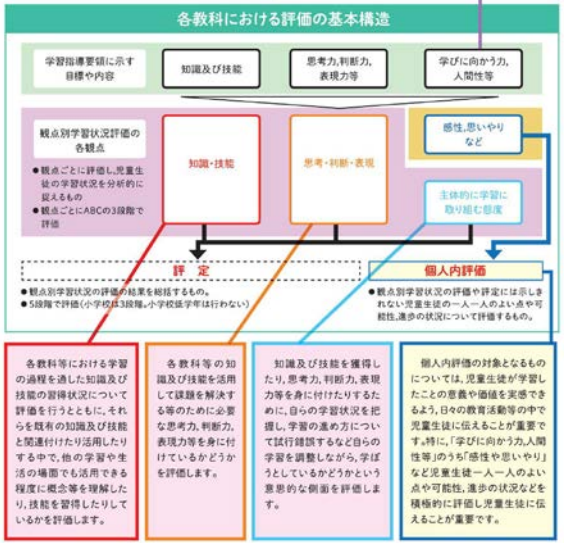
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

指導と評価の一体化を図るためには，児童生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視することによって，教師が自らの指導のねらいに応じて授業の中での児童生徒の学びを振り返り，学習や指導の改善に生かしていくというサイクルが大切です。平成29年改訂学習指導要領で重視している「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して，各教科等における資質・能力を確実に育成する上で，学習評価は重要な役割を担っています。

学習評価の基本構造

平成29年改訂で，学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ，各教科における観点別学習状況の評価の観点については，「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されています。

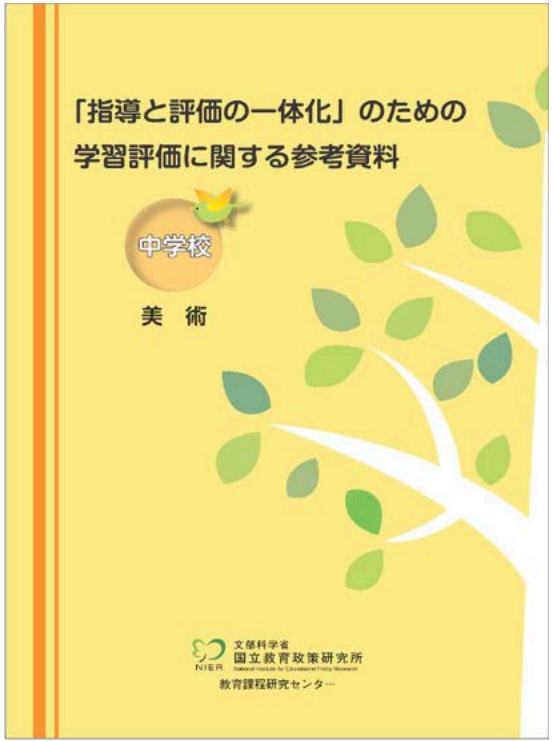
「学びに向かう力，人間性等」には
①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ることができる部分と，
②観点別評価や評定にはなじまず，こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があります。



「学習評価の在り方ハンドブック」

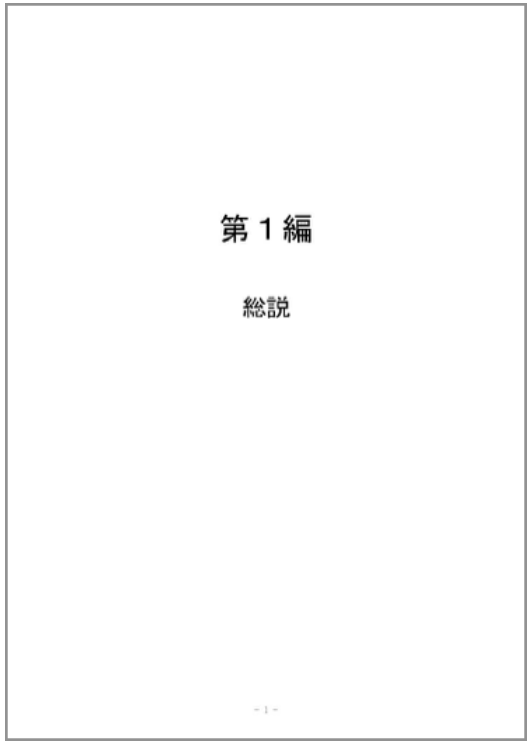
学習評価に関する基本的な情報をまとめたもの
教員研修等で活用されることを想定して作成

国立教育政策研究所が作成する資料の概略について



「指導と評価の一体化」のための
学習評価に関する参考資料（中学校美術）

国立教育政策研究所が作成する資料の概略について


第１編

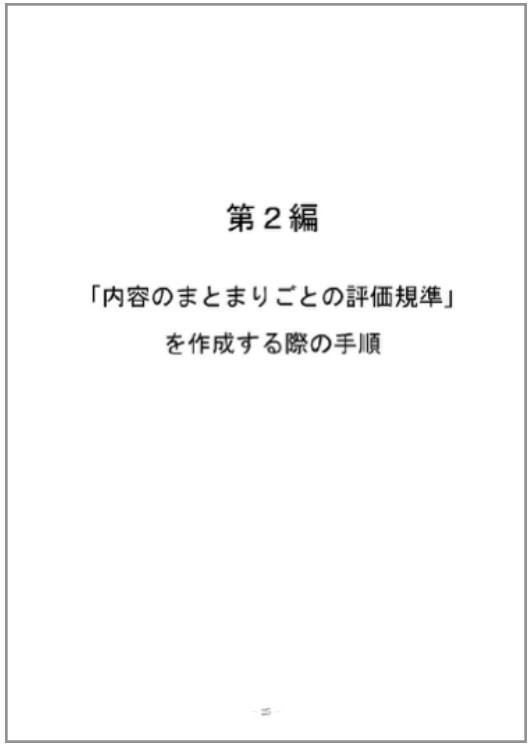
総説

「指導と評価の一体化」のための
学習評価に関する参考資料（中学校美術）

第１編　総説

各教科共通で，学習指導要領改訂の方針，学習評価の基本的な考え方等を示すもの

国立教育政策研究所が作成する資料の概略について


第２編

「内容のまとまりごとの評価規準」
を作成する際の手順

「指導と評価の一体化」のための
学習評価に関する参考資料（中学校美術）

第２編　各教科等における「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際の手順

各教科別に，学習指導要領の規定から評価規準を作成する際の手順を示すもの

18.

美術科における「内容のまとまり」とは，

学習指導要領に示す各教科等の「第２ 各学年の目標及び内容２ 内容」の項目等をそのまとまりごとに細分化したり整理したりしたものである。平成29 年改訂学習指導要領においては資質・能力の三つの柱に基づく構造化が行われたところであり，美術科においては，学習指導要領に示す「第２ 各学年の目標及び内容」の「２ 内容」において，指導事項等を整理することで「内容のまとまり」を構成している。

感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現
「A 表現」(1)ア(2), 〔共通事項〕

目的や機能などを考えた表現
「A 表現」(1)イ(2), 〔共通事項〕

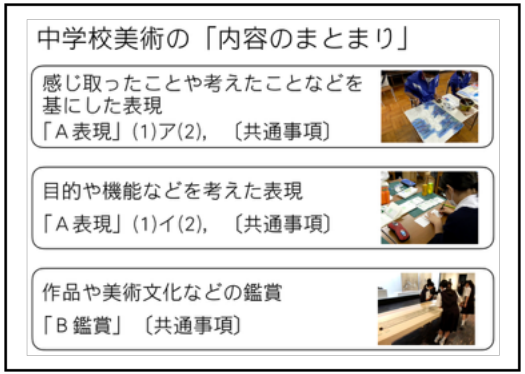
作品や美術文化などの鑑賞
「B 鑑賞」, 〔共通事項〕

中学校美術科の
「内容のまとまり」

美術科における「内容のまとまり」とは，

学習指導要領に示す各教科等の「第２ 各学年の目標及び内容２ 内容」の項目等をそのまとまりごとに細分化したり整理したりしたものである。平成29 年改訂学習指導要領においては資質・能力の三つの柱に基づく構造化が行われたところであり，美術科においては，学習指導要領に示す「第２ 各学年の目標及び内容」の「２ 内容」において，指導事項等を整理することで「内容のまとまり」を構成している。

「内容のまとまりごとの評価規準」（例）



知識・技能

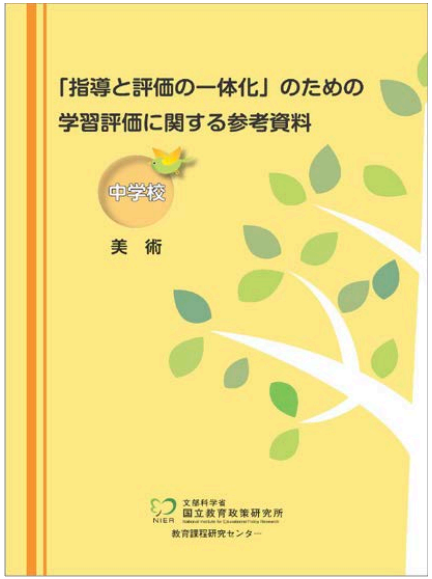
思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

「内容のまとまりごとの評価規準」（例）
「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現（第１学年）「Ａ表現(1)ア(2),〔共通事項〕」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解している。 ・造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 ・材料や用具の生かし方などを身に付け，意図に応じて工夫して表している。 ・材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら，見通しをもって表している。	・対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ，想像したことなどを基に主題を生み出し，全体と部分との関係などを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構想を練っている	・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校美術）令和２年３月 P97～98



「内容のまとまりごとの評価規準」（例）の作成

感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現
「A 表現」(1)ア(2), 〔共通事項〕

目的や機能などを考えた表現
「A 表現」(1)イ(2), 〔共通事項〕

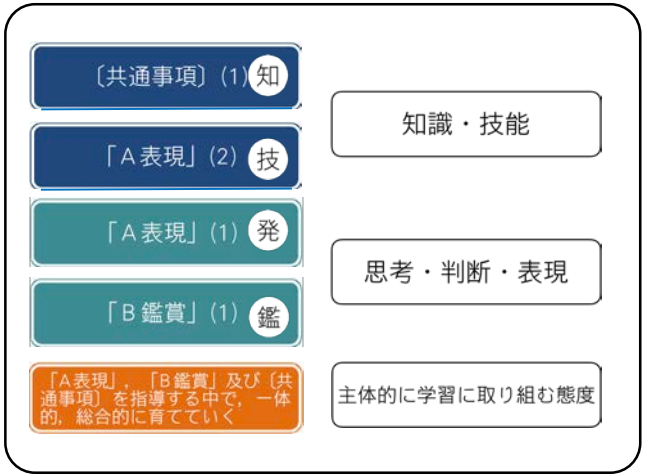
作品や美術文化などの鑑賞
「B 鑑賞」, 〔共通事項〕

「内容のまとまりごとの評価規準」（例）の作成

	知識及び技能 ※
学習指導要領 2 内容	〔共通事項〕 (1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解すること。 イ　造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

※第１学年の知識を例に解説

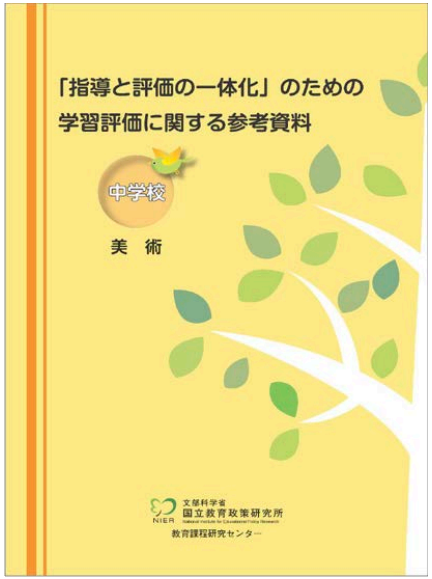
	知識・技能
内容のまとまりごとの評価規準例	・形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解している。 ・造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。



「内容のまとまりごとの評価規準」（例）
「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現（第１学年）「Ａ表現(1)ア(2),〔共通事項〕」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解している。 ・造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 ・材料や用具の生かし方などを身に付け，意図に応じて工夫して表している。 ・材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら，見通しをもって表している。	・対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ，想像したことなどを基に主題を生み出し，全体と部分との関係などを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構想を練っている	・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校美術）令和２年３月 P97～98

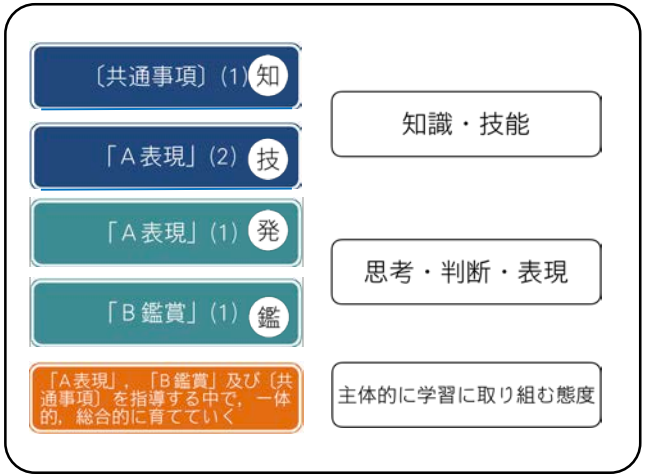


「内容のまとまりごとの評価規準」（例）の作成

	思考力，判断力，表現力等※
学習指導要領　2　内容	「Ａ表現」 (1) 表現の活動を通して，次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。 ア　感じ取ったことや考えたことなどを基に，絵や彫刻などに表現する活動を通して，発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ｱ) 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ，想像したことなどを基に主題を生み出し，全体と部分との関係などを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構想を練ること。

※第１学年の発想や構想を例に解説

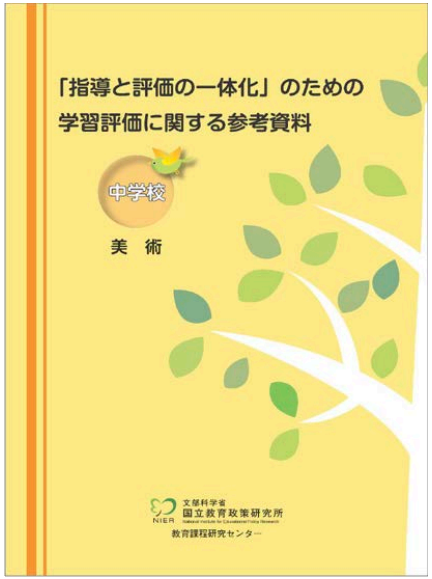
	思考・判断・表現
内容のまとまりごとの評価規準例	・対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ，想像したことなどを基に主題を生み出し，全体と部分との関係などを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構想を練っている。



「内容のまとまりごとの評価規準」（例）
「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現（第１学年）「Ａ表現(1)ア(2),〔共通事項〕」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解している。 ・造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 ・材料や用具の生かし方などを身に付け，意図に応じて工夫して表している。 ・材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら，見通しをもって表している。	・対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ，想像したことなどを基に主題を生み出し，全体と部分との関係などを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構想を練っている	・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校美術）令和２年３月 P97～98



各教科における評価の基本構造

・各教科における評価は，**学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）**
・したがって，目標準拠評価は，**集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。**

学習指導要領に示す目標や内容

- 知識及び技能
- 思考力，判断力，表現力等
- 学びに向かう力，人間性等

観点別学習状況評価の各観点

・**観点ごとに評価し，児童生徒の学習状況を分析的に捉える**もの
・観点ごとにＡＢＣの**３段階で評価**

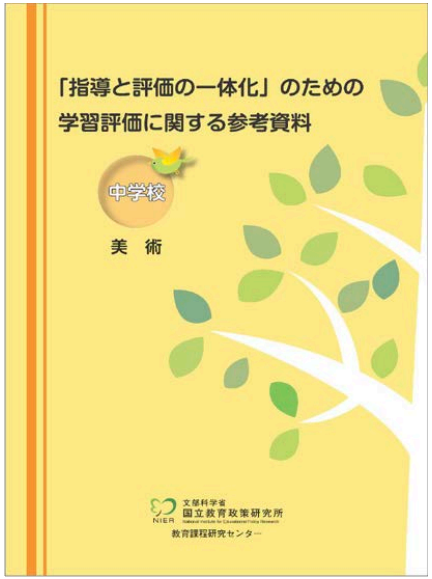
- 知識・技能
- 思考・判断・表現
- 感性，思いやりなど
- 主体的に学習に取り組む態度

評　定

・**観点別学習状況の評価の結果を総括**するもの。
・**５段階で評価（小学校は３段階。小学校低学年は行わない）**

個人内評価

・観点別学習状況の評価や評定には示しきれない**児童生徒一人一人のよい点や可能性，進歩の状況**について評価するもの。



「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校美術）令和２年３月 P8

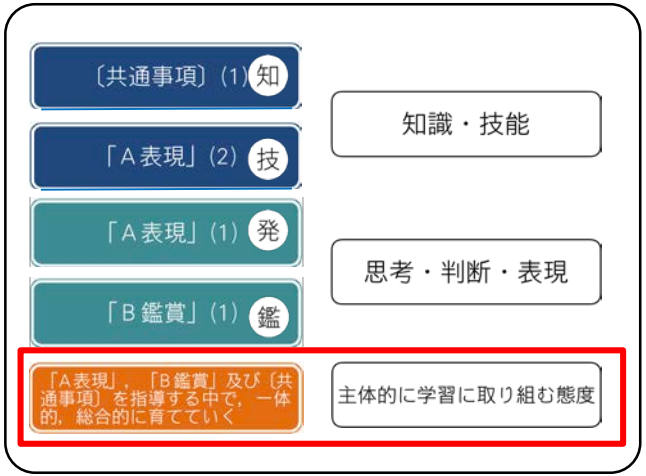
「内容のまとまりごとの評価規準」（例）の作成

	学びに向かう力，人間性等
学習指導要領 2 内容	該当学年の目標(3)及び「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」に該当する学習指導要領の内容を参考にする。

観点	主体的に学習に取り組む態度※
趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

※第１学年の評価の観点の趣旨を例に解説

	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準例	・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。 ※学年別の観点の趣旨（主体的に学習に取り組む態度）及び「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」に該当する学習指導要領の内容を基に作成。



巻末資料

中学校美術科における「内容のまとまりごとの評価規準（例）」

Ⅰ　第１学年

１　第１学年の目標と評価の観点及びその趣旨

	（1）	（2）	（3）
目標	対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに，意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ，表現の意図と工夫，機能性と美しさとの調和，美術の働きなどについて考え，主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり，美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい，美術を愛好する心情を培い，心豊かな生活を創造していく態度を養う。

（中学校学習指導要領 P. 107）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・意図に応じて表現方法を工夫して表している。	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ，表現の意図と工夫，機能性と美しさとの調和，美術の働きなどについて考えるとともに，主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり，美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

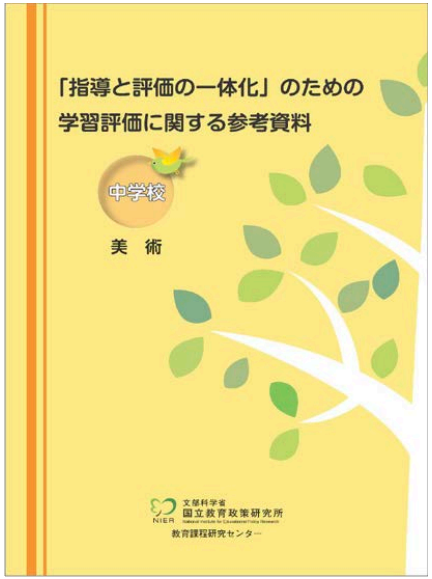
（改善等通知　別紙４　P. 17）

２　内容のまとまりごとの評価規準（例）

(1)「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現　「Ａ表現」(1)ア(2)，〔共通事項〕」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解している。 ・造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 ・材料や用具の生かし方などを身に付け，意図に応じて工夫	・対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ，想像したことなどを基に主題を生み出し，全体と部分との関係などを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構想を練っている	・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。

巻末資料



「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校美術）令和２年３月 P95～101

学習指導要領の目標や内容との整合性を図る

「内容のまとまりごとの評価規準」(例)を，題材の評価規準の作成に活用する

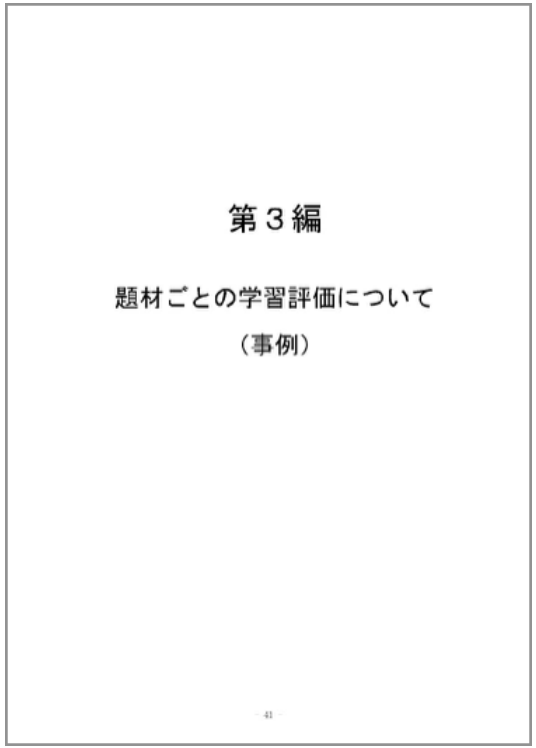
「内容のまとまりごとの評価規準」(例)

題材の目標や内容に応じて文言等を変更

題材の評価規準

3.指導と評価の一体化を図る学習評価の在り方

国立教育政策研究所が作成する資料の概略について


第３編

題材ごとの学習評価について

（事例）

「指導と評価の一体化」のための
学習評価に関する参考資料（中学校美術）

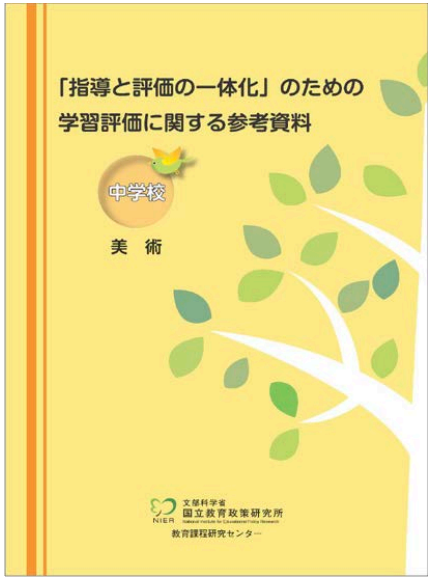
第３編　題材ごとの学習評価について（事例）

各教科別に，学習評価に関する事例を示すもの

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

2 各事例概要一覧と事例

事例１ キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで
「花の命を感じて」 (第１学年)
事例２ キーワード 「思考・判断・表現」の評価
「私たちの町を案内しよう
～多様な人々に伝わるピクトグラムの制作～」 (第３学年)
事例３ キーワード 「知識」を活用した鑑賞の評価
「発見！日本の美 ～日本美術のよさや特徴について
語り合おう～」 (第３学年)
事例４ キーワード 「主体的に学習に取り組む態度」の評価
「視点を感じて ～写そう 私の〇〇な情景～」 (第２学年)



題材の評価規準の作成

事例1 ： 花の命を感じて

内容のまとまり
第1 学年「 感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」
及び「 作品や美術文化などの鑑賞」

「 指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（ 中学校美術） 令和2 年3 月 P51～65

題材の評価規準の作成

事例1 ： 花の命を感じて

内容のまとまり
第１学年「 感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」
及び「 作品や美術文化などの鑑賞」

「 指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（ 中学校美術） 令和２ 年３ 月 P51～65

題材と関連する「内容のまとまりごとの評価規準」(例)

知識・技能
・形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解している。 ・造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 ・材料や用具の生かし方などを身に付け，意図に応じて工夫して表している。

「花の命を感じて」の題材の評価規準

知識・技能
知 形や色彩などが感情にもたらす効果や，造形的な特徴などを基に，美しさや生命感などを全体のイメージで捉えることを理解している。 技 水彩絵の具の生かし方などを身に付け，意図に応じて工夫して表している。

事例1 ： 花の命を感じて

内容のまとまり
第１学年「 感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」
及び「 作品や美術文化などの鑑賞」

「 指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（ 中学校美術） 令和２ 年３ 月 P51～65

題材と関連する「内容のまとまりごとの評価規準」(例)

思考・判断・表現
・対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ，想像したことなどを基に主題を生み出し，全体と部分との関係などを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構想を練っている。

「花の命を感じて」の題材の評価規準

思考・判断・表現
発 花を見つめ感じ取った花や葉の形や色彩の特徴や美しさ，生命感などを基に主題を生み出し，画面全体と花や葉との関係などを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構想を練っている。

事例1 ： 花の命を感じて

内容のまとまり
第１学年「 感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」
及び「 作品や美術文化などの鑑賞」

「 指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（ 中学校美術） 令和２ 年３ 月 P51～65

「花の命を感じて」の題材の評価規準

「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
知　形や色彩などが感情にもたらす効果や，造形的な特徴などを基に，美しさや生命感などを全体のイメージで捉えることを理解している。 技　水彩絵の具の生かし方などを身に付け，意図に応じて工夫して表している。	発　花を見つめ感じ取った花や葉の形や色彩の特徴や美しさ，生命感などを基に主題を生み出し，画面全体と花や葉との関係などを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構想を練っている。 鑑　造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして，見方や感じ方を広げている。	態表　美術の創造活動の喜びを味わい楽しく花の美しさや生命感などを基に構想を練ったり，意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑　美術の創造活動の喜びを味わい楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校美術）令和２年３月 P45

事例1 ： 花の命を感じて

内容のまとまり
第１学年「 感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」
及び「 作品や美術文化などの鑑賞」

「 指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（ 中学校美術） 令和２ 年３ 月 P51～65

生徒の学びに働き，指導の改善につながる評価

3．制作（2時間）

●発想や構想を基に，意図に応じて表現方法を創意工夫し，見通しをもって表す。
・形などが感情にもたらす効果を生かし，意図に応じて表現方法を創意工夫して，制作の順序などを総合的に考えながら，見通しをもって創造的に表す。また，制作の途中に鑑賞を行い，客観的な視点に立って他者の作品を見たり自分の意図を説明したりすることにより，表したいものをより一層明確にしていくなどしながら作品を完成させる。

技 → 知・技

発 →

態表 → 態表

技 形などが感情にもたらす効果を生かし，意図に応じて表現方法を創意工夫して，制作の順序などを総合的に考えながら表しているかどうかを見取り，できていない生徒には，発想や構想を確認させたり，他の生徒の作品を紹介するなどして表現の表し方の工夫について考えさせたりするような指導を行う。【制作途中の作品】

発 この段階で構想などがまとまらない生徒を中心に見取り，指導を行う。【制作途中の作品】

態表 主体的に表現方法を創意工夫しようとしたり，見通しをもって表そうとしたりしている態度を見取り，できていない生徒に対して形や線の描き方による印象の違いなどに気付かせながら，表現の工夫などについての意欲を高めるような指導を行う。【制作途中の作品，活動の様子】

知・技 作品から，意図に応じて表現方法を創意工夫して表しているかなどを見取るとともに，形などの効果や全体のイメージで捉えることを理解していることを併せて見取り，知と技を知・技として一体的に評価する。【作品，アイデアスケッチ，ワークシート等】

態表 主体的に制作に取り組み，形などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし，見通しをもち意図に応じて工夫して表そうとしている態度を評価する。【作品，活動の様子】

授業の中で評価規準を通して，生徒の学習の実現状況を見取り，生徒の学習の改善や，教師の指導の改善につなげるために用いる「題材の評価規準」

事例２ 「私たちの町を案内しよう ～多様な人々に伝わるピクトグラムの制作～」（第３学年）

3．制作（2時間）

●発想や構想を基に，意図に応じて表現方法を創意工夫し，見通しをもって表す。
・形などが感情にもたらす効果を生かし，意図に応じて表現方法を創意工夫して，制作の順序などを総合的に考えながら，見通しをもって創造的に表す。また，制作の途中に鑑賞を行い，客観的な視点に立って他者の作品を見たり自分の意図を説明したりすることにより，表したいものをより一層明確にしていくなどしながら作品を完成させる。

技 → 技形などが感情にもたらす効果を生かし，意図に応じて表現方法を創意工夫して，制作の順序などを総合的に考えながら表しているかどうかを見取り，できていない生徒には，発想や構想を確認させたり，他の生徒の作品を紹介するなどして表現の表し方の工夫について考えさせたりするような指導を行う。【制作途中の作品】

発 → 発この段階で構想などがまとまらない生徒を中心に見取り，指導を行う。【制作途中の作品】

態表 → 態表主体的に表現方法を創意工夫しようとしたり，見通しをもって表そうとしたりしている態度を見取り，できていない生徒に対して形や線の描き方による印象の違いなどに気付かせながら，表現の工夫などについての意欲を高めるような指導を行う。【制作途中の作品，活動の様子】

知・技 → 知・技 作品から，意図に応じて表現方法を創意工夫して表しているかなどを見取るとともに，形などの効果や全体のイメージで捉えることを理解していることを併せて見取り，知と技を知・技として一体的に評価する。【作品，アイデアスケッチ，ワークシート等】

態表 → 態表 主体的に制作に取り組み，形などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし，見通しをもち意図に応じて工夫して表そうとしている態度を評価する。【作品，活動の様子】

生徒の学びに働き，指導の改善につながる評価

題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる「題材の評価規準」（授業内での評価を再確認するための評価も含む）を示す。ここでの評価が最終的に評定の総括にも用いられることになる。

事例２ 「私たちの町を案内しよう ～多様な人々に伝わるピクトグラムの制作～」（第３学年）

生徒の学びに働き，指導の改善につながる評価

3．制作（2時間）	技	発	態表	
●発想や構想を基に，意図に応じて表現方法を創意工夫し，見通しをもって表す。 ・形などが感情にもたらす効果を生かし，意図に応じて表現方法を創意工夫して，制作の順序などを総合的に考えながら，見通しをもって創造的に表す。また，制作の途中に鑑賞を行い，客観的な視点に立って他者の作品を見たり自分の意図を説明したりすることにより，表したいものをより一層明確にしていくなどしながら作品を完成させる。				技 形などが感情にもたらす効果を生かし，意図に応じて表現方法を創意工夫して，制作の順序などを総合的に考えながら表しているかどうかを見取り，できていない生徒には，発想や構想を確認させたり，他の生徒の作品を紹介するなどして表現の表し方の工夫について考えさせたりするような指導を行う。【制作途中の作品】 発 この段階で構想などがまとまらない生徒を中心に見取り，指導を行う。【制作途中の作品】 態表 主体的に表現方法を創意工夫しようとしたり，見通しをもって表そうとしたりしている態度を見取り，できていない生徒に対して形や線の描き方による印象の違いなどに気付かせながら，表現の工夫などについての意欲を高めるような指導を行う。【制作途中の作品，活動の様子】 知・技 作品から，意図に応じて表現方法を創意工夫して表しているかなどを見取るとともに，形などの効果や全体のイメージで捉えることを理解していることを併せて見取り，知と技を知・技として一体的に評価する。【作品，アイデアスケッチ，ワークシート等】 態表 主体的に制作に取り組み，形などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし，見通しをもち意図に応じて工夫して表そうとしている態度を評価する。【作品，活動の様子】
	知・技		態表	

授業の中で評価規準を通して，生徒の学習の実現状況を見取り，生徒の学習の改善や，教師の指導の改善につなげる留意点等について示している。

事例２ 「私たちの町を案内しよう ～多様な人々に伝わるピクトグラムの制作～」（第３学年）

生徒の学びに働き，指導の改善につながる評価

3．制作（2時間）

●発想や構想を基に，意図に応じて表現方法を創意工夫し，見通しをもって表す。
・形などが感情にもたらす効果を生かし，意図に応じて表現方法を創意工夫して，制作の順序などを総合的に考えながら，見通しをもって創造的に表す。また，制作の途中に鑑賞を行い，客観的な視点に立って他者の作品を見たり自分の意図を説明したりすることにより，表したいものをより一層明確にしていくなどしながら作品を完成させる。

技 ↓ 発 ↓ 態表 ↓

技 形などが感情にもたらす効果を生かし，意図に応じて表現方法を創意工夫して，制作の順序などを総合的に考えながら表しているかどうかを見取り，できていない生徒には，発想や構想を確認させたり，他の生徒の作品を紹介するなどして表現の表し方の工夫について考えさせたりするような指導を行う。【制作途中の作品】

発 この段階で構想などがまとまらない生徒を中心に見取り，指導を行う。【制作途中の作品】

態表 主体的に表現方法を創意工夫しようとしたり，見通しをもって表そうとしたりしている態度を見取り，できていない生徒に対して形や線の描き方による印象の違いなどに気付かせながら，表現の工夫などについての意欲を高めるような指導を行う。【制作途中の作品，活動の様子】

知・技 作品から，意図に応じて表現方法を創意工夫して表しているかなどを見取るとともに，形などの効果や全体のイメージで捉えることを理解していることを併せて見取り，知と技を知・技として一体的に評価する。【作品，アイデアスケッチ，ワークシート等】

態表 主体的に制作に取り組み，形などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし，見通しをもち意図に応じて工夫して表そうとしている態度を評価する。【作品，活動の様子】

知・技 態表

題材の観点別学習状況の評価の総括に用いる評価についての評価方法や留意点等について示している。また，【 】は，評価の方法や生徒の学習の実現状況を見取るための資料を示す。

事例２ 「私たちの町を案内しよう ～多様な人々に伝わるピクトグラムの制作～」（第３学年）

各観点の評価のポイント：「知識・技能」(知識)の評価

この観点は，表現及び鑑賞の活動を通して，〔共通事項〕に示す「造形的な視点を豊かにするための知識」として，形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果を理解することや，造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解することについて評価するものである。

ここでの知識は，表現や鑑賞の場面において，学んだ知識を生かして，形や色彩，材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり，全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりできるようになるなど，単に暗記することに終始するような知識ではなく，美術の学習の中で生きて働く知識として実感的に理解した実現状況を評価することが求められる。

各観点の評価のポイント：「知識・技能」(知識)の評価

＜生徒の作品とワークシート例＞

＜生徒のワークシートの記述（部分）＞
作品名「生き生きと輝く仲間たち」
色々な花がどんどん咲いてきて生き生きとしたあたたかい感じが出るように，花の大きさを変えたり，にじみや色を重ねたりして表してみました。

事例１（p60）

花子さんたちは地域の美術館の「休憩所」に表示するためのピクトグラムをデザインすることになりました。この美術館にはすでに下のようなピクトグラムが表示されています。

受付・案内　エレベーター　水飲み場

美術館のピクトグラム

花子と太郎さん，下の「練習作品Ⅰ」をそれぞれ制作しましたが，美術館で表示されている他のピクトグラムとはあまり統一感がないことに気付きました。そこで，花子さんは①②③の改善点を加え，太郎さんは④⑤⑥の改善点を加えてそれぞれ「練習作品Ⅱ」と「練習作品Ⅲ」を描きました。

①　②，③

花子さんの練習作品Ⅰ　花子さんの練習作品Ⅱ　花子さんの練習作品Ⅲ

④　⑤，⑥

太郎さんの練習作品Ⅰ　太郎さんの練習作品Ⅱ　太郎さんの練習作品Ⅲ

花子と太郎さんは，「統一感のあるわかりやすいピクトグラム」にするために「練習作品Ⅰ」から「練習作品Ⅲ」にする際にどのように改善しましたか。花子さんと太郎さんのそれぞれ三つの改善点を解答欄に書きなさい。

		花子さんと太郎さんのピクトグラムの改善点
花子	①	
	②	
	③	
太郎	④	
	⑤	
	⑥	

事例２（p73）

作品の表し方の特徴	作品の特徴から感じたこと
・白黒で描かれている。墨の濃い薄いで遠近感を出している。 ・松しか描かれていないし，何も描かれていないところが多い。	・墨の表現や何も描いていない部分があって全体的に寂しい感じがする。 ・この場所の雰囲気を感じる。霧がかかっていて静かな感じがする。
・遠くに行くほど，描かれているものが小さくなっている。 ・作者の見ている風景をとても忠実に描いている。	・遠近感がすごい。ずっと道が遠くまで続いているように感じる。 ・木に光が当たっているところが描かれていて本物の木のようだと思った。

事例３（p83）

各観点の評価のポイント：「知識・技能」(技能)の評価

この観点は，造形的な見方・考え方を働かせて，発想や構想をしたことなどを基に表すために，材料，用具などの表現方法などを身に付け，感性や造形感覚，美的感覚などを働かせて，表現方法を工夫し創造的に表すなどの技能に関する資質・能力を評価するものである。

創造的に表す技能は制作が進む中で徐々に作品に具体的な形となって現れるものである。そのため制作途中の作品を中心に，完成作品からも再度評価し，生徒の創造的に表す技能の高まりを読み取ることが大切である。

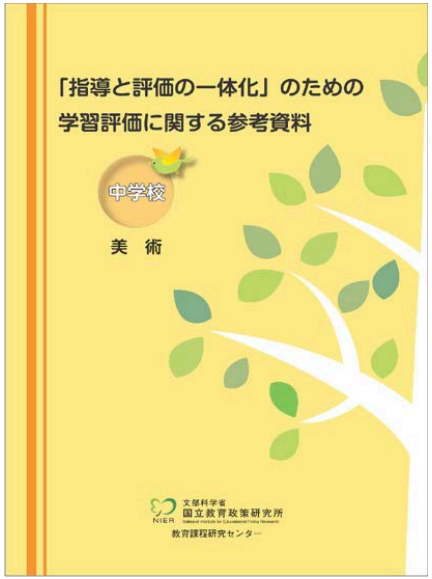
各観点の評価のポイント：「思考・判断・表現」(発想や構想)の評価

この観点は，造形的な見方・考え方を働かせて，自己の内面などを見つめて，感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し，それらを基に創造的な構成を工夫したり，目的や条件などを基に主題を生み出し，分かりやすさや使いやすさと美しさなどとの調和を考え，構想を練ったりするなどの発想や構想に関する資質・能力を評価するものである。

発想や構想は，制作が進む中で徐々に具体的な形になり，更にそこから深まることが多い。そのため制作途中の作品を中心に，完成作品からも再度評価し，生徒の発想や構想に関する資質・能力の高まりを読み取ることが大切である。

事例１「花の命を感じて」の指導と評価の計画

		発	態表	発 生徒が，主題を生み出し，創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構想を練っているかどうかを暫定的に評価し，第二次で再度評価を行う。【ワークシート，アイデアスケッチ】 態表 楽しく発想や構想の活動に取り組み，形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解	第一次 発想や構想
	知・技	発	態表	発 主題の変化や配色計画などの構想を含めて，発想や構想を再度見取り評価する。【作品】 態表 楽しく制作に取り組み，形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし，意図に応じて工夫して表そうとしている態度を評価する。【完成作品，活動の様子】	第二次 制作
		発		て見方や感じ方を広げられているかをワークシートで見取り評価する。【ワークシート】 発 発想や構想について，主題や構想の工夫などを記述したワークシート等を完成作品と併せて再度見取り必要に応じて修正する。【完成作品，アイデアスケッチ，ワークシート】	授業外 題材終了後

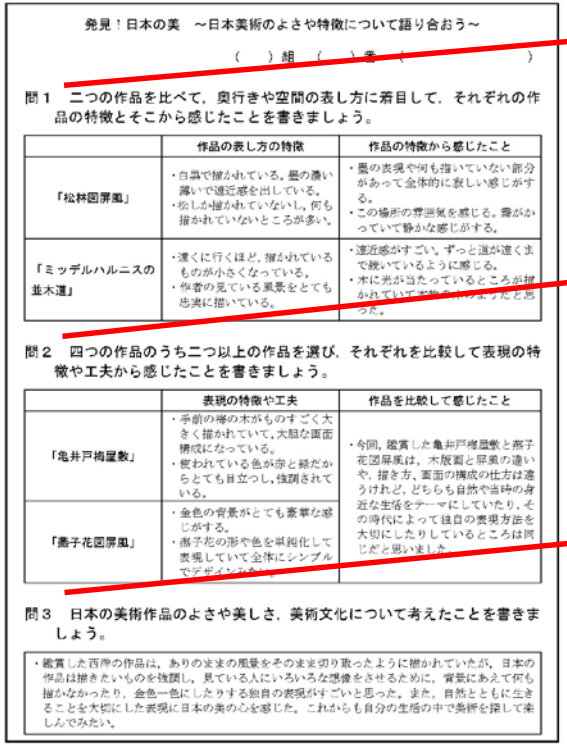


各観点の評価のポイント：「思考・判断・表現」(鑑賞)の評価

この観点は，造形的な見方・考え方を働かせて，自然や生活の中の造形，美術作品や文化遺産などから，よさや美しさなどを感じ取り，作者の心情や表現の意図と工夫，生活や社会の中の美術の働きや美術文化について考えるなどして見方や感じ方を広げたり深めたりする鑑賞に関する資質・能力を評価するものである。

題材によっては，鑑賞的な活動が位置付けられていても，それが発想や構想に関する学習を深めるための活動であったり，主体的に学習に取り組む態度を高めるための活動であったりすることも考えられるため，活動のねらいを確認するなど評価規準の設定には留意する必要がある。

事例３「発見！日本の美」のワークシート



発見！日本の美　～日本美術のよさや特徴について語り合おう～

（　　）組　（　　）番　（　　）

問１　二つの作品を比べて，奥行きや空間の表し方に着目して，それぞれの作品の特徴とそこから感じたことを書きましょう。

	作品の表し方の特徴	作品の特徴から感じたこと
「松林図屏風」	・白黒で描かれている。墨の濃い薄いで遠近感を出している。 ・松しか描かれていないし，何も描かれていないところが多い。	・墨の表現や何も描いていない部分があって全体的に寂しい感じがする。 ・この場所の雰囲気を感じる。霧がかっていて静かな感じがする。
「ミッデルハルニスの並木道」	・遠くに行くほど，描かれているものが小さくなっている。 ・作者の見ている風景をとても忠実に描いている。	・遠近感がすごい。ずっと道が遠くまで続いているように感じる。 ・木に光が当たっているところが描かれていて不思議な感じのまつだと思った。

問２　四つの作品のうち二つ以上の作品を選び，それぞれを比較して表現の特徴や工夫から感じたことを書きましょう。

	表現の特徴や工夫	作品を比較して感じたこと
「亀井戸梅屋敷」	・手前の梅の木がものすごく大きく描かれていて，大胆な画面構成になっている。 ・使われている色が赤と緑だからとても目立つし，強調されている。	・今回，鑑賞した亀井戸梅屋敷と燕子花図屏風は，木版画と屏風の違いや，描き方，画面の構成の仕方は違うけれど，どちらも自然や当時の身近な生活をテーマにしていたり，その時代によって独自の表現方法を大切にしたりしているところは同じだと思いました。
「燕子花図屏風」	・金色の背景がとても豪華な感じがする。 ・燕子花の形や色を単純化して表現していて全体にシンプルでデザインみたい。	

問３　日本の美術作品のよさや美しさ，美術文化について考えたことを書きましょう。

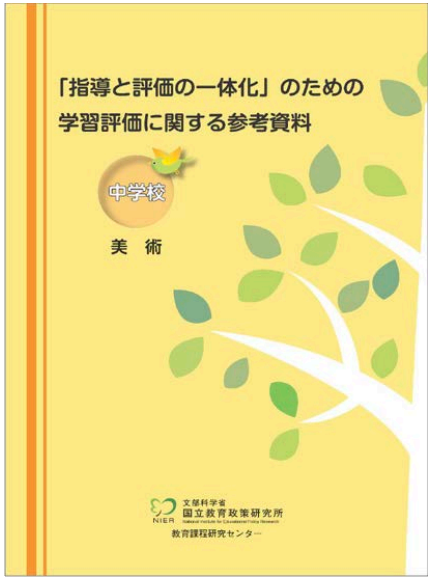
・鑑賞した西洋の作品は，ありのままの風景をそのまま切り取ったように描かれていたが，日本の作品は描きたいものを強調し，見ている人にいろいろな想像をさせるために，背景にあえて何も描かなかったり，金色一色にしたりする独自の表現がすごいと思った。また，自然とともに生きることを大切にした表現に日本の美の心を感じた。これからも自分の生活の中で美術を探して楽しんでみたい。

問１　二つの作品を比べて，奥行きや空間の表し方に着目して，それぞれの作品の特徴と，そこから感じたことを書きましょう。

問２　四つの作品のうち二つ以上の作品を選び，それぞれを比較して表現の特徴や工夫から感じたことを書きましょう。

問３　日本の美術作品のよさや美しさ，美術文化について考えたことを書きましょう。

事例３　「発見！日本の美　～日本美術のよさや特徴について語り合おう～」（第３学年）



事例３：発見！日本の美
～日本美術のよさや特徴について語り合おう～

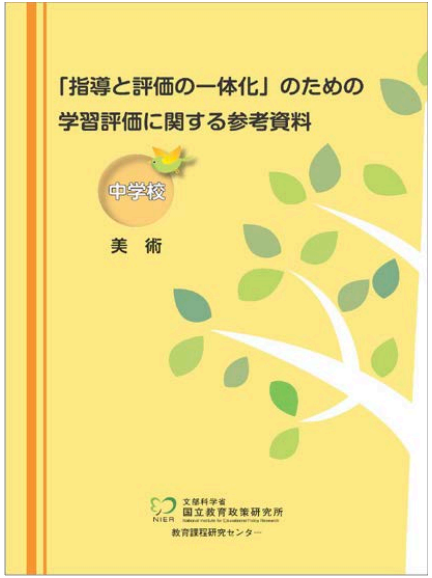
鑑 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから，造形的なよさや美しさを感じ取り，諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き，表現の意図と創造的な工夫，美術文化について考えるなどして，美意識を高め，見方や感じ方を深めている。

ワークシートの設問例

問１　二つの作品を比べて，奥行きや空間の表し方に着目して，それぞれの作品の特徴と，そこから感じたことを書きましょう。

問２　四つの作品のうち二つ以上の作品を選び，それぞれを比較して表現の特徴や工夫から感じたことを書きましょう。

問３　日本の美術作品のよさや美しさ，美術文化について考えたことを書きましょう。



「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校美術）令和２年３月 P83

事例３「発見！日本の美」のワークシート

発見！日本の美　～日本美術のよさや特徴について語り合おう～

（　　）組　（　　）番　（　　）

問１　二つの作品を比べて，奥行きや空間の表し方に着目して，それぞれの作品の特徴とそこから感じたことを書きましょう。

	作品の表し方の特徴	作品の特徴から感じたこと
「松林図屏風」	・白黒で描かれている。墨の濃い薄いで遠近感を出している。 ・松しか描かれていないし，何も描かれていないところが多い。	・墨の表現や何も描いていない部分があって全体的に寂しい感じがする。 ・この場所の雰囲気を感じる。霧がかっていて静かな感じがする。
「ミッデルハルニスの並木道」	・遠くに行くほど，描かれているものが小さくなっている。 ・作者の見ている風景をとても忠実に描いている。	・遠近感がすごい。ずっと道が遠くまで続いているように感じる。 ・木に光が当たっているところが描かれていて本物の木のようだと思った。

問２　四つの作品のうち二つ以上の作品を選び，それぞれを比較して表現の特徴や工夫から感じたことを書きましょう。

	表現の特徴や工夫	作品を比較して感じたこと
「亀井戸梅屋敷」	・手前の梅の木がものすごく大きく描かれていて，大胆な画面構成になっている。 ・使われている色が赤と緑だからとても目立つし，強調されている。	・今回，鑑賞した亀井戸梅屋敷と燕子花図屏風は，木版画と屏風の違いや，描き方，画面の構成の仕方は違うけれど，どちらも自然や当時の身近な生活をテーマにしていたり，その時代によって独自の表現方法を大切にしたりしているところは同じだと思いました。
「燕子花図屏風」	・金色の背景がとても豪華な感じがする。 ・燕子花の形や色を単純化して表現していて全体にシンプルでデザインみたい。	

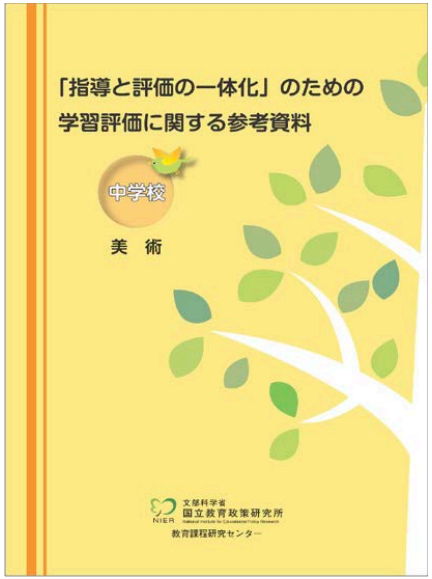
問３　日本の美術作品のよさや美しさ，美術文化について考えたことを書きましょう。

・鑑賞した西洋の作品は，ありのままの風景をそのまま切り取ったように描かれていたが，日本の作品は描きたいものを強調し，見ている人にいろいろな想像をさせるために，背景にあえて何も描かなかったり，金色一色にしたりする独自の表現がすごいと思った。また，自然とともに生きることを大切にした表現に日本の美の心を感じた。これからも自分の生活の中で美術を探して楽しんでみたい。

学習のねらい

整合性

ワークシート等の設問



各観点の評価のポイント：「主体的に学習に取り組む態度」の評価

この観点は，生徒が「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」を身に付けようとしたり，発揮しようとしたりすることへ向かう，主体的な美術への学習に対する態度を評価するものである。表現活動においては，机間指導等の際に試行錯誤を繰り返し粘り強く取り組んだり，よりよい表現を目指して構想や技能を，工夫改善したりしていく様子などの姿を捉えながら指導と評価を行うことが大切である。また，鑑賞活動においては，作品などを鑑賞し，造形的な視点を活用しながら造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり，作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えようとしたりするなどの意欲や態度等を評価を通して高めることが大切である。

造形的な視点について理解する（〔共通事項〕）

創造的に表す

「知識及び技能」

発想や構想をする

見方や感じ方を深める

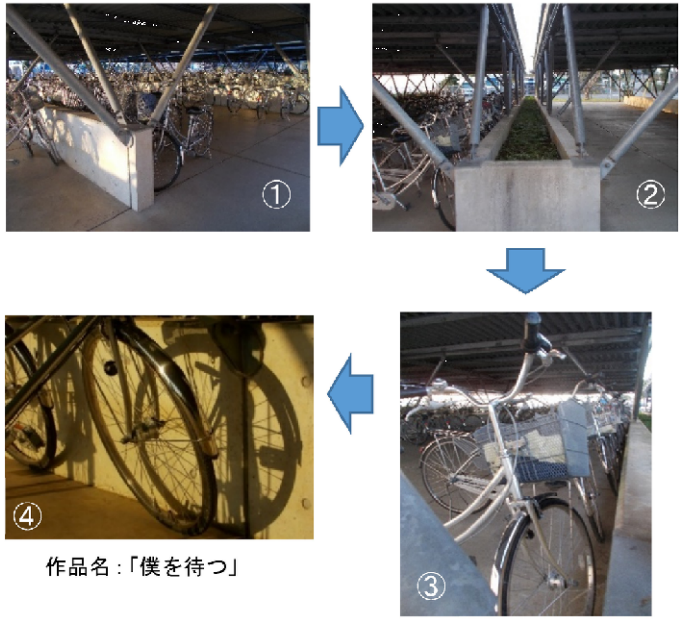
「思考力，判断力，表現力等」

主体的に学習に取り組む態度

粘り 強い取組を行う 中で，自らの学習を調整しようとする側面

事例4 ： 視点を感じて　～写そう 私の〇〇な情景～

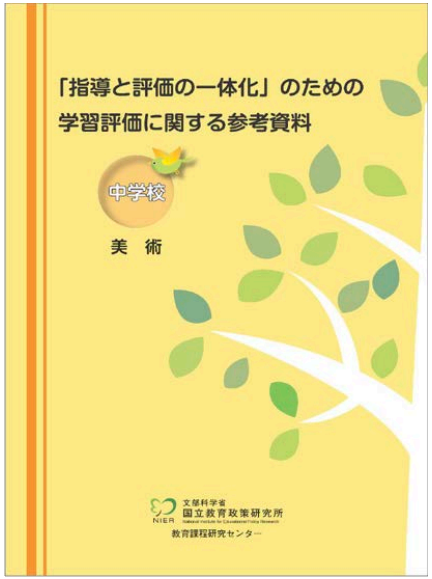
＜生徒の撮影の改善例＞



作品名：「僕を待つ」

＜生徒のワークシート の記述例＞

放課後の下校するときに私を待っている自転車を表現しようと考えた。1 枚目は，画面の中央に自分の自転車を置いて撮影したが，普通のスナップ写真のようになってしまったので，2 枚目は，自転車置き場の柱が左右対称になるような構図を考えて，左側に自分の自転車を置いて撮影した。写真としては面白い感じになったけれど，自転車が私を待っているような感じが出ていないので，3 枚目は，自分の自転を画面に大きく入るように撮影した。もう少し放課後に待つ感じを出そうと思い，4 枚目は，撮影するのを授業の最後の方まで待って，夕日が自転車に当たって放課後に私を待っているような雰囲気になるように撮影場所を工夫した。

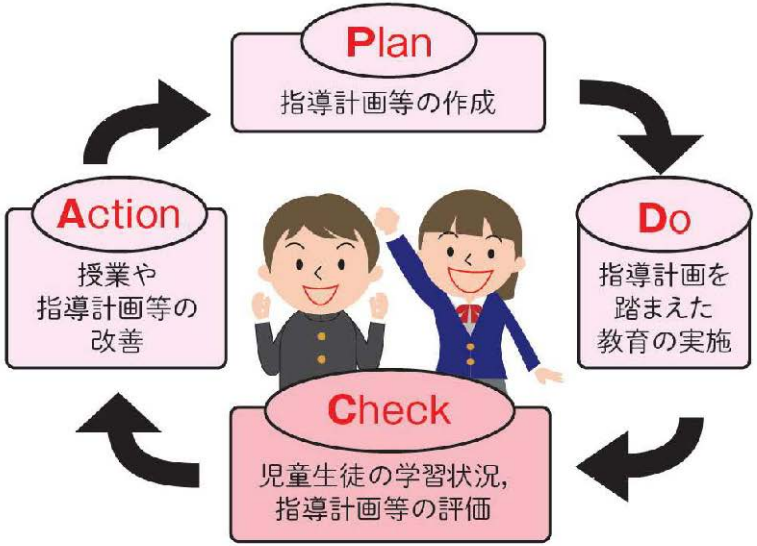


「 指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（ 中学校美術） 令和2 年3 月 P92

4. おわりに

学習評価の基本的な考え方

カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価



国立教育政策研究所　学習評価の在り方ハンドブック P4，P5（一部抜粋）

学習指導要領等関係資料について

学習指導要領、学習指導要領解説 等

中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（平成28 年12 月21 日）

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会報告「児童生徒の学習評価の在り方について」（平成31 年1 月21 日）

小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（平成31 年3 月29 日30 文科初第1845 号初等中等教育局長通知）

学習評価の在り方ハンドブック(小・中学校編) (令和元年6 月)

学習評価の在り方ハンドブック(高等学校編) (令和元年6 月)

平成29年改訂の小・中学校学習指導要領に関する Q&A

平成30年改訂の高等学校学習指導要領に関する Q&A

平成29・30年改訂の学習指導要領下における学習評価に関する Q&A

新学習指導要領に対応した学習評価
（中学校　美術科）

文部科学省
初等中等教育局　視学官　東良　雅人